

ANAホールディングス株式会社 説明会

2023年3月期 第3四半期決算

2023年2月2日

上席執行役員
グループCFO

中堀 公博



- ◎ 本日はお忙しい中、2023年3月期 第3四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 最初に、スライドの3ページをご覧ください。

目次

2022年度 第3四半期決算

1. 決算概要、通期業績予想の修正		3. 航空事業	
決算概要（第3四半期累計）	P. 3	収入・費用	P. 16
決算概要（第3四半期）	P. 4	営業利益 増減要因	P. 17
事業別の取り組み	P. 5	売上高の推移	P. 18
通期業績予想（修正）	P. 7	ANA国際旅客	P. 19
足元の需要動向	P. 8	ANA国内旅客	P. 20
セグメント別計画（修正）	P. 9	ANA国際貨物	P. 21-22
航空事業 売上・費用計画（修正）	P. 10	ANA国内貨物	P. 23
		LCC	P. 24
2. 連結決算（詳細）		事業別の概況	P. 25-26
経営成績	P. 11	コロナ前との対比	P. 27
財政状態	P. 12	燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）	P. 28
キャッシュフロー	P. 13-14	航空機数	P. 29
セグメント別実績	P. 15	4. ノンエア事業	
		航空事業以外のセグメント	P. 30

決算概要 (第3四半期累計)

2022年度 第3四半期決算 (4-12月、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	12,586	+5,206	+70.5%
航空事業	11,340	+4,955	+77.6%
営業費用	11,596	+3,058	+35.8%
航空事業	10,348	+2,835	+37.7%
営業利益	989	+2,147	-
航空事業	991	+2,120	-
営業利益率	7.9%	-	-
経常利益	923	+2,106	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	626	+1,654	-
EBITDA	2,065	+2,121	-

売上高・営業利益の推移
(第3四半期累計・連結)

1. 売上高 : 旅客需要を確実に取り込み、前年から大幅に増加
2. 営業利益 : 2022年10月末に修正した通期の営業利益計画を超過
3. EBITDA : 前年同期と比べて、2,121億円の改善

- ◎ 第3四半期決算の概要について、ご説明します。
- ◎ **売上高**は、前年から5,206億円、70.5パーセント増加の、1兆2,586億円となりました。航空事業において、回復する旅客需要を着実に取り込み、前年から大幅な増収となりました。
- ◎ **営業利益**は、前年から2,147億円改善して、989億円となりました。第3四半期が終了した段階で、通期の営業利益計画650億円を大幅に超過しました。
- ◎ **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、626億円となりました。また**EBITDA**は、前年から2,121億円改善して、2,065億円となりました。
- ◎ 4ページをご覧ください。

決算概要 (第3四半期)

2022年度 第3四半期 (10-12月のみ、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	4,679	+1,610	+52.5%
航空事業	4,211	+1,530	+57.1%
営業費用	4,004	+936	+30.5%
航空事業	3,620	+947	+35.4%
営業利益	675	+673	355.4倍
航空事業	591	+583	73.9倍
営業利益率	14.4%	+14.4pt	-
経常利益	621	+649	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	430	+470	-
EBITDA	1,041	+672	+182.3%

営業利益・営業利益率の推移
(2022年度 四半期別・連結)

四半期ベースの業績は着実に改善

- ◎ こちらは、10月から12月の第3四半期単独の決算概要です。
- ◎ 右の図は、四半期別の営業利益と営業利益率の推移ですが、第3四半期の**営業利益**は675億円、**営業利益率**は14.4パーセントとなりました。これまで「事業構造改革」に取り組み、固定費を中心にコスト削減を進めてきた中、政府を含めたステークホルダーの皆さまのサポートに支えられながら、トップラインを拡大させた成果が表れました。
- ◎ 5ページをご覧ください。

事業別の取り組み (第3四半期)

	事業環境	具体的な取り組み、概況	10-12月のみ 売上高 前年同期比
ANA			
国際旅客	水際対策が緩和	1) 北米線、アジア線を中心に旅客数が大幅増加 2) 運賃コントロールを徹底→高イールドが継続	約7.2倍 (+1,111億円)
国際貨物	需給逼迫が軟化	3) 主要商材(自動車・半導体)の需要が弱含み ・単価は前年並みの高水準を維持	△27% (△267億円)
国内旅客	ウィズコロナが定着 「全国旅行支援」の実施	4) 大型機を活用して、レジャー需要の獲得を強化 ・10月初めから全15機のボーイング777型機が運航可能に	+58% (+546億円)
国内線の運航便数はグループ計でコロナ前水準に回復			
peach			
LCC	レジャー需要が回復	5) 国際線の運航を再開し、機材稼働を向上	+85% (+97億円)
生産量を機動的に拡大 → 旅客需要を取り込みトップラインを向上			

©ANAHD2023

5

- ◎ 第3四半期の事業別の取り組みについてご説明します。
- ◎ **ANA国際旅客**は、10月以降、北米線やアジア線を中心に訪日客が増加したほか、日本発のビジネス需要も堅調に回復しました。
また、運賃コントロールを徹底し、イールドが高い水準で推移した結果、第3四半期単独の売上高は、前年同期から7.2倍に増加しました。
- ◎ **ANA国際貨物**では、単価は前年並みの高い水準を維持しましたが、主要商材の需要が年末にかけて弱含んだ結果、売上高は前年から27パーセント減少しました。
- ◎ **ANA国内旅客**は、ウィズコロナの定着により、コロナ感染第8波の影響は軽微に留まりました。
10月初めから、全15機のボーイング777型機が運航可能となり、レジャー需要の獲得を強化したことで、売上高は58パーセント増加しました。
- ◎ **Peach**は、台北線やソウル線など、国際線の運航を再開したことなどにより、売上高は85パーセント増加しました。
- ◎ 上期は、収益性を重視した対応を徹底しましたが、第3四半期は、ANAとPeachを合わせた国内線の運航便数をコロナ前水準に回復するなど、生産量を機動的に拡大することで、旅客需要を取り込みトップラインを向上しました。
- ◎ 7ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

通期業績予想(修正)

2022年度 通期業績予想の修正(連結)

(億円)	前回修正 (22.10.31)	今回修正 (23.2.2)	差異
売上高	17,000	17,100	+100
航空事業	15,270	15,320	+50
営業利益	650	950	+300
航空事業	680	965	+285
営業利益率	3.8%	5.6%	+1.7pt
経常利益	550	850	+300
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	600	+200
EBITDA	2,105	2,405	+300

修正のポイント

- 1) 国際線旅客収入が想定以上に好調
- 2) 営業費用が計画を下回る見通し
(コストマネジメントの徹底、市況変動)

通期業績予想を上方修正

- > 第3四半期の実績を反映
- > 第4四半期は計画を据え置き(*1)

*1: 2022年10月31日開示

市況	前回 (下期修正)	今回 (変更なし)
為替レート(円/US\$)	145	145
トバイ原油(US\$/bbl)	100	100
シンケロ(US\$/bbl)	130	130

【参考】営業利益計画の推移



©ANAHD2023

7

- ◎ 通期業績予想の修正について、ご説明します。
- ◎ 第3四半期は、水際対策の緩和による訪日客の増加を背景に、国際線旅客収入が想定を上回りました。また費用についても、コストマネジメントを徹底したほか、原油市況も計画前提を下回る水準で推移しました。
- ◎ 以上をふまえ、第3四半期の実績を反映して、通期の業績予想を再度上方修正することとしました。
- ◎ 売上高は、昨年10月末に開示した修正計画から100億円増加の、1兆7,100億円とします。営業利益は、650億円から、950億円に修正します。経常利益は850億円、親会社株主に帰属する当期純利益は600億円とします。
- ◎ 8ページをご覧ください。

航空事業・事業別の需要動向 (コロナ前との比較)

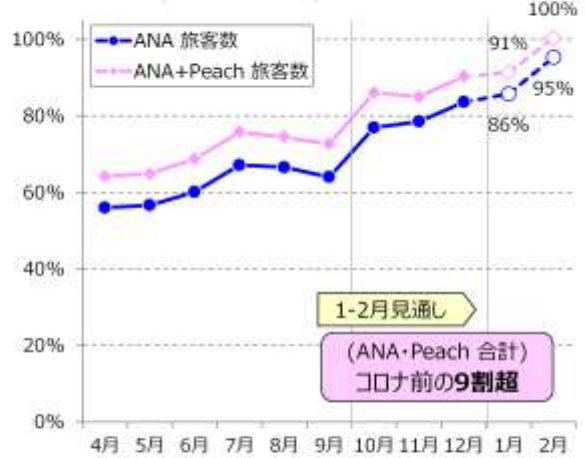
1. ANA国際旅客



2. ANA国際貨物



3. 国内旅客 (ANA・Peach)



* グラフは全てコロナ前との比較

- ① 4~12月実績 : 2019年4~12月(2019年度 3Q)との比較
 ② 1~2月実績 : 2019年1~2月(2018年度 4Q)との比較

* 収益認識に関する会計基準の適用により、実績・見通しともに特典航空券の利用旅客を含んで算定
 (新収益認識に基づいて変更した2019年実績との対比)

© ANAHD2023

8

◎ 現時点の需要動向について、ご説明します。

◎ 1番の**ANA国際旅客**では、

コロナ前の2019年と今年の春節時期が異なるため、月毎の回復率に波がみられますが、海外発を中心に、需要は堅調に増加しています。

中国線の供給に制約があるため、1~2月は計画前提の55パーセントを下回って推移していますが、全方面でイールドは高い水準を維持しています。

◎ 2番の**ANA国際貨物**では、国際旅客と同様、月別では春節時期の影響がありますが、1月と2月の合計で、概ねコロナ前と同水準の重量を確保する見通しです。

◎ 3番の**国内旅客**は、

ANAとPeachの合計で、1月以降の旅客数が、コロナ前の9割を超える見通しです。

全国旅行支援の延長を好機と捉えて、レジャー需要を積極的に取り込んでいきます。

◎ なお、セグメント別、ならびに航空事業に関する修正計画の詳細は、

9ページと10ページをご参照ください。

続いて11ページをご覧ください。

セグメント別 計画 (修正)

(億円)		FY2021	FY2022 今回修正予想	前年差	FY2022 前回修正予想*
売上高	航空事業	8,850	15,320	+ 6,469	15,270
	航空関連事業	2,068	2,500	+ 431	2,500
	旅行事業	462	800	+ 337	850
	商社事業	816	1,050	+ 233	1,000
	その他	381	370	△ 11	370
	調整額	△ 2,376	△ 2,940	△ 563	△ 2,990
	合計(連結)	10,203	17,100	+ 6,896	17,000
営業利益	航空事業	△ 1,629	965	+ 2,594	680
	航空関連事業	△ 6	65	+ 71	55
	旅行事業	△ 21	△ 10	+ 11	△ 5
	商社事業	5	30	+ 24	25
	その他	13	5	△ 8	5
	調整額	△ 93	△ 105	△ 11	△ 110
	合計(連結)	△ 1,731	950	+ 2,681	650

* 2022年10月31日開示の業績予想

航空事業 売上高・営業費用 計画 (修正)

(億円)		FY2021	FY2022 今回修正予想	前年差	FY2022 前回修正予想*
売上高	国際旅客	701	4,110	+ 3,408	4,000
	国内旅客	2,798	5,320	+ 2,521	5,320
	貨物郵便	3,617	3,600	△ 17	3,660
	その他	1,354	1,340	△ 14	1,300
	合計	8,850	15,320	+ 6,469	15,270
営業費用	燃油費・燃料税	1,939	3,660	+ 1,720	3,690
	燃油費・燃料税 以外	8,540	10,695	+ 2,154	10,900
	合計	10,480	14,355	+ 3,874	14,590
営業利益	営業利益	△ 1,629	965	+ 2,594	680

* 2022年10月31日開示の業績予想

経営成績

(億円)	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期	前年差
売上高	7,380	12,586	+ 5,206	4,679	+ 1,610
営業費用	8,538	11,596	+ 3,058	4,004	+ 936
営業利益	△ 1,158	989	+ 2,147	675	+ 673
営業利益率 (%)	-	7.9	-	14.4	+14.4pt
営業外損益	△ 25	△ 66	△ 41	△ 54	△ 24
経常利益	△ 1,183	923	+ 2,106	621	+ 649
特別損益	△ 62	△ 0	+ 62	-	+ 4
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 1,028	626	+ 1,654	430	+ 470
四半期純利益	△ 1,017	636	+ 1,653	436	+ 475
その他包括利益	80	△ 195	△ 276	△ 417	△ 438
包括利益	△ 936	441	+ 1,377	18	+ 37

©ANAHD2023

11

- ◎ ここから、連結決算の詳細についてご説明します。
- ◎ 売上高は、前年同期から5,206億円増加の、1兆2,586億円、営業費用は、前年から3,058億円増加の、1兆1,596億円となりました。生産量を拡大させた中でも、費用の増加を抑制しました。
- ◎ これらの結果、営業利益は989億円、経常利益は923億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は626億円となりました。
- ◎ 12ページをご覧ください。

財政状態

(億円)	FY2021 期末	FY2022 第3四半期末	前年度 期末差
総資産	32,184	32,849	+ 664
自己資本	7,972	8,426	+ 454
自己資本比率 (%)	24.8	25.7	+ 0.9pt
有利子負債残高	17,501	16,246	△ 1,254
D/ELシオ (倍)	2.2	1.9	△ 0.3
手元流動性資金 *1	9,509	10,836	+ 1,326
純有利子負債残高 *2	7,991	5,409	△ 2,581
ネットD/ELシオ (倍) *3	1.0	0.6	△ 0.4

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

*3 ネットD/ELシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

- ◎ 財政状態です。
- ◎ 総資産は3兆2,849億円、自己資本は8,426億円となり、自己資本比率は、25.7パーセントとなりました。また、有利子負債は1兆6,246億円、デット・エクイティ・レシオは1.9倍となりました。
- ◎ 当四半期末における手元流動性資金は、1兆836億円、ネットデット・エクイティ・レシオは、0.6倍となりました。
- ◎ 13ページをご覧ください。

キャッシュフロー

(億円)	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	△ 406	3,392	+ 3,799
投資キャッシュフロー	1,109	△ 1,530	△ 2,640
財務キャッシュフロー	1,150	△ 1,275	△ 2,425
現金及び現金同等物の増減額	1,850	610	△ 1,240
現金及び現金同等物の期首残高	3,703	6,210	} + 610
現金及び現金同等物の期末残高	5,553	6,820	
減価償却費	1,177	1,114	△ 63
設備投資額（固定資産のみ）	1,173	943	△ 230
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金等を除く)	△ 1,090	2,578	+ 3,668
EBITDA（営業利益＋減価償却費*）	△ 55	2,065	+ 2,121
EBITDAマージン（%）	-	16.4	-

* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

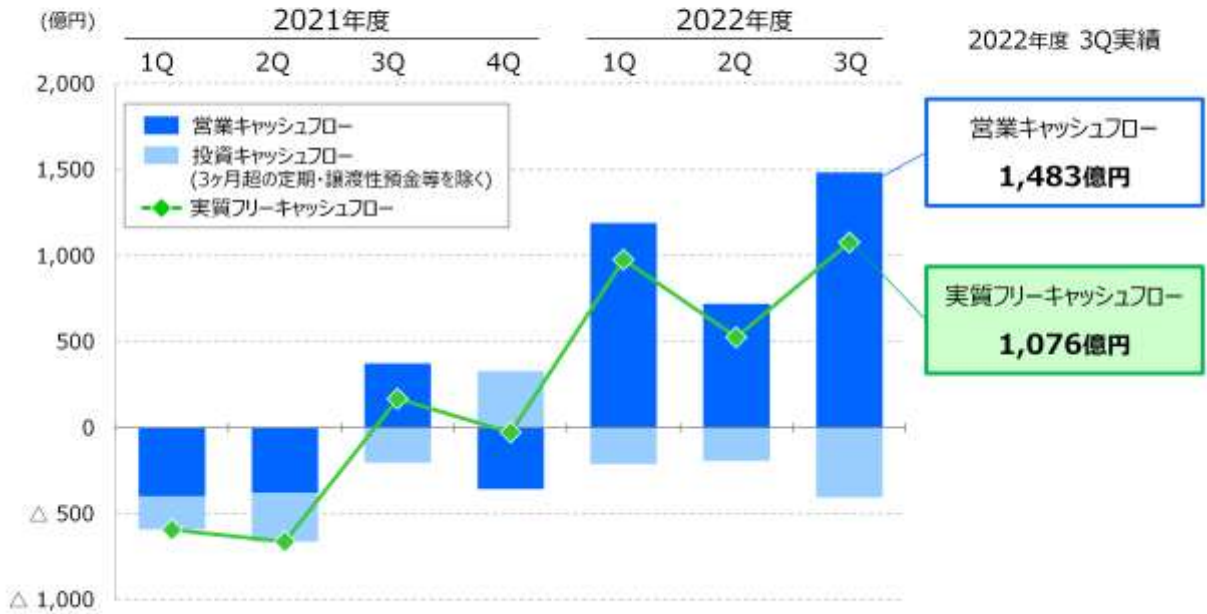
© ANAHD2023

13

- ◎ キャッシュフローです。
- ◎ 営業キャッシュフローは、3,392億円の収入、投資キャッシュフローは、1,530億円の支出、財務キャッシュフローは、1,275億円の支出となりました。
- ◎ 3ヶ月超の定期・譲渡性預金等の資金移動を除いた投資キャッシュフローから算出する、実質フリーキャッシュフローは、2,578億円の収入となりました。
- ◎ 続きまして 14ページをご覧ください。

【参考】実質フリーキャッシュフローの推移

実質フリーキャッシュフローは着実に改善



©ANAHD2023

14

- ◎ 実質フリーキャッシュフローの推移です。
- ◎ 第3四半期単独の実質フリーキャッシュフローは、1,076億円の収入となりました。
旅客需要の回復に伴う売上高の増加に加えて、
営業費用や設備投資の抑制に取り組んだことにより、キャッシュフローは着実に改善しています。
- ◎ 15ページをご覧ください。

セグメント別実績

(億円)		FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期	前年差
売上高	航空事業	6,384	11,340	+ 4,955	4,211	+ 1,530
	航空関連事業	1,498	1,802	+ 304	666	+ 145
	旅行事業	345	530	+ 185	210	+ 61
	商社事業	614	765	+ 151	289	+ 58
	その他	276	272	△ 4	94	△ 7
	調整額	△ 1,739	△ 2,125	△ 385	△ 794	△ 177
	合計(連結)	7,380	12,586	+ 5,206	4,679	+ 1,610
営業利益	航空事業	△ 1,129	991	+ 2,120	591	+ 583
	航空関連事業	26	51	+ 24	83	+ 73
	旅行事業	△ 2	△ 6	△ 3	5	+ 6
	商社事業	6	30	+ 23	14	+ 8
	その他	11	3	△ 7	7	+ 3
	調整額	△ 70	△ 80	△ 9	△ 28	△ 1
	合計(連結)	△ 1,158	989	+ 2,147	675	+ 673

©ANAHD2023

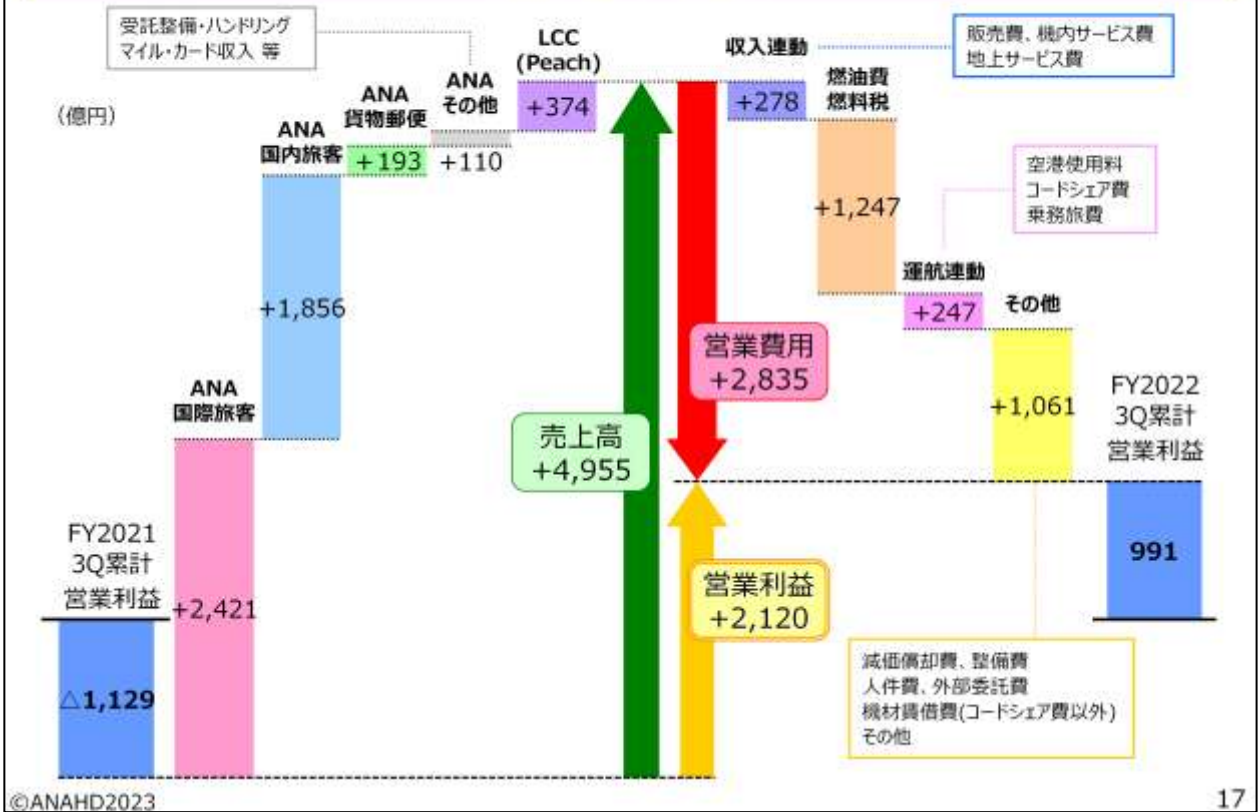
15

- ◎ セグメント別の実績です。
- ◎ 航空関連事業では、旅客需要の回復に伴い、空港ハンドリング業務などが増加したことなどにより、前年から増収増益となりました。
- ◎ 旅行事業では、全国旅行支援の後押しもあり、国内旅行を中心に増収となりました。
- ◎ 商社事業では、空港リテール事業の回復に加えて、電子事業が好調に推移したことで、黒字幅が拡大しました。
- ◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。
17ページをご覧ください。

収入・費用

(億円)		FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期	前年差
売上高	国際旅客	482	2,903	+ 2,421	1,289	+ 1,111
	ANA 国内旅客	2,065	3,921	+ 1,856	1,493	+ 546
	貨物郵便	2,624	2,818	+ 193	819	△ 263
	その他	966	1,076	+ 110	397	+ 38
	LCC	245	620	+ 374	211	+ 97
	合計	6,384	11,340	+ 4,955	4,211	+ 1,530
営業費用	燃油費・燃料税	1,348	2,596	+ 1,247	890	+ 344
	空港使用料	310	428	+ 118	160	+ 43
	航空機材賃借費	849	987	+ 138	338	+ 51
	減価償却費	1,051	1,031	△ 19	351	+ 1
	整備部品・外注費	597	958	+ 361	314	+ 113
	人件費	1,147	1,402	+ 255	477	+ 92
	販売費	199	355	+ 156	128	+ 48
	外部委託費	1,253	1,523	+ 269	573	+ 134
	その他	756	1,064	+ 307	385	+ 117
		合計	7,513	10,348	+ 2,835	3,620
営業利益	△ 1,129	991	+ 2,120	591	+ 583	
EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 77	2,022	+ 2,100	943	+ 584	
EBITDAマージン (%)	-	17.8	-	22.4	+ 9.0pt	

営業利益 増減要因



17

- ◎ 航空事業における、営業利益の前年比較です。
- ◎ **売上高**は、国際線、国内線ともに旅客事業が大幅に改善したことなどにより、全体で4,955億円の増加となりました。
- ◎ **営業費用**は、燃油費や運航連動費用が増加しましたが、整備費などの固定費の増加を抑制したことで、前年から2,835億円の増加に留めました。
- ◎ これらの結果、**営業利益**は、前年から2,120億円改善して、991億円の黒字となりました。
- ◎ 次の18ページには、事業別の四半期売上高の推移をお示していますので、ご確認ください。25ページをご覧ください。

【参考】売上高の推移



ANA国際旅客

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第3四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キロ (百万)	14,962	24,804	+ 65.8 (△53.0)	10,093	+ 82.6 (△43.4)
旅客キロ (百万)	3,746	17,994	+ 380.3 (△57.7)	7,281	+ 385.8 (△49.2)
旅客数 (千人)	549	2,817	+ 412.9 (△65.4)	1,157	+ 422.1 (△57.0)
座席利用率 (%)	25.0	72.5	+47.5pt*1 (△8.1pt)	72.1	+45.0pt*1 (△8.2pt)
旅客収入 (億円)	482	2,903	+ 501.9 (△42.4)	1,289	+ 622.9 (△23.4)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	3.2	11.7	+ 263.1 (+22.4)	12.8	+ 296.0 (+35.4)
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	12.9	16.1	+ 25.3 (+36.1)	17.7	+ 48.8 (+50.8)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	87,821	103,063	+ 17.4 (+66.7)	111,434	+ 38.5 (+78.2)

*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国内旅客

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第3四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キロ (百万)	24,539	37,136	+ 51.3 (△17.4)	13,223	+ 41.0 (△10.0)
旅客キロ (百万)	12,090	23,144	+ 91.4 (△31.3)	9,051	+ 65.9 (△19.1)
旅客数 (千人)	13,198	24,870	+ 88.4 (△32.1)	9,719	+ 60.5 (△20.4)
座席利用率 (%)	49.3	62.3	+13.0pt*1 (△12.7pt)	68.5	+10.3pt*1 (△7.7pt)
旅客収入 (億円)	2,065	3,921	+ 89.9 (△30.0)	1,493	+ 57.8 (△19.9)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	8.4	10.6	+ 25.5 (△15.3)	11.3	+ 11.9 (△11.0)
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	17.1	16.9	△ 0.8 (+ 1.9)	16.5	△ 4.9 (△1.0)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,648	15,768	+ 0.8 (+ 3.0)	15,363	△ 1.7 (+0.6)

*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国際貨物（ペリー+フレイター）

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	5,233	4,980	△ 4.8	1,649	△ 10.6
有償貨物トンキロ（百万）	3,929	3,205	△ 18.4	1,002	△ 29.1
貨物輸送重量（千トン）	743	622	△ 16.3	197	△ 26.1
貨物重量利用率（%）	75.1	64.4	△ 10.7pt*	60.8	△ 15.8pt*
貨物収入（億円）	2,377	2,561	+ 7.7	725	△ 26.9
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	45.4	51.4	+ 13.2	44.0	△ 18.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	60.5	79.9	+ 32.1	72.4	+ 3.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	320	412	+ 28.7	367	△ 1.2

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

本表のデータは、P.21記載実績の内数

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,780	1,805	+ 1.4	580	△ 7.0
有償貨物トンキロ（百万）	1,257	1,161	△ 7.6	365	△ 18.2
貨物輸送重量（千トン）	317	291	△ 8.1	93	△ 16.9
貨物重量利用率（%）	70.6	64.3	△ 6.3pt*	63.0	△ 8.7pt*
貨物収入（億円）	871	1,089	+ 25.0	313	△ 13.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	49.0	60.3	+ 23.3	54.0	△ 7.4
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	69.3	93.8	+ 35.4	85.8	+ 5.4
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	275	374	+ 36.1	335	+ 3.7

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国内貨物

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	701	1,044	+ 48.9	380	+ 44.0
有償貨物トンキロ(百万)	213	216	+ 1.3	77	+ 1.4
貨物輸送重量(千トン)	189	194	+ 2.5	71	+ 3.1
貨物重量利用率(%)	30.5	20.8	△ 9.7pt*	20.5	△ 8.6pt*
貨物収入(億円)	187	186	△ 0.9	67	+ 0.5
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	26.8	17.8	△ 33.5	17.7	△ 30.2
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	87.9	85.9	△ 2.3	86.3	△ 0.9
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	99	96	△ 3.4	94	△ 2.6

* 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
座席千口 (百万)	5,556	9,050	+ 62.9	3,018	+ 31.1
旅客千口 (百万)	3,336	6,414	+ 92.3	2,205	+ 41.5
旅客数 (千人)	2,922	5,613	+ 92.1	1,929	+ 41.1
座席利用率 (%)	60.0	70.9	+10.8pt*1	73.1	+5.4pt*1
売上高 (億円) *2	245	620	+ 152.5	211	+ 85.0
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席千口)	4.4	6.9	+ 55.0	7.0	+ 41.1
イールド (円) (売上高/旅客千口)	7.4	9.7	+ 31.3	9.6	+ 30.7
単価 (円) (売上高/旅客数)	8,401	11,045	+ 31.5	10,986	+ 31.1

*1 座席利用率のみ前年差

*2 売上高に付帯収入を含む

事業別の概況 (ANA国際旅客・ANA国際貨物)

1. ANA国際旅客



2. ANA国際貨物



第3四半期(10~12月)の概況

1) 水際緩和で訪日需要が増加

コロナ前同四半期比

旅客キロ 51%

2) イールドマネジメントを強化

イールド 151%

売上高 77%

1) 需給バランスは徐々に正常化

コロナ前同四半期比

貨物重量 83%

2) フレイターを最大限活用
高い単価水準を維持

単価 325%

売上高 269%

* グラフはコロナ前実績(2019年1~12月実績)=100%

* 2019年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

© ANAHD2023

25

◎ 事業別の動向です。

グラフは、各四半期のコロナ前比の推移をお示しています。

◎ 1番の**ANA国際旅客**は、

日本発のビジネス需要や訪日客を取り込み、

第3四半期の旅客キロは、コロナ前の51パーセントとなりました。

一方、イールドはコロナ前の1.5倍に向上したため、売上高は77パーセントまで回復しました。

なお、第3四半期の座席キロはコロナ前の57パーセントに伸ばしましたが、

まだ、今後に拡大するための十分な余地があります。

日本発レジャー需要の回復や、訪日客の更なる増加を見据え、

来期以降も、生産量を機動的に拡大していく計画です。

◎ 2番は**ANA国際貨物**です。

海上輸送の混雑緩和などにより、航空貨物の需給バランスは正常化に向かう一方、

フレイターを最大限に活用し、高単価貨物や特殊商材の取り込みを強化したことで、

重量あたりの単価は、コロナ前の約3.3倍と高い水準を維持しました。

これらの結果、売上高はコロナ前の約2.7倍となりました。

◎ 26ページをご覧ください。

事業別の概況 (ANA国内旅客・Peach)

3. ANA国内旅客



4. Peach (国内線・国際線合計)



第3四半期(10~12月)の概況

1) 大型機の活用で生産量拡大

コロナ前同四半期比

旅客数 80%

2) イールドマネジメントを強化

単価 101%

売上高 80%

1) 国際線の運航再開

回復する訪日需要を獲得

コロナ前同四半期比

旅客数 108%

2) 値上げ・販促強化

単価 108%

売上高 117%

* グラフはコロナ前実績(2019年1~12月実績)=100%

* 2019年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

26

◎ 3番の**ANA国内旅客**は、曜日や時間帯の違いによる需要の波動を捉え、大型機も選択肢として、適切な機材を投入しながら生産量を拡大したことで、旅客数はコロナ前の80パーセントとなりました。低運賃を志向するレジャー需要が増加する中でも、イールドマネジメントを強化し、単価をコロナ前と同水準に維持した結果、売上高も80パーセントまで回復しました。

◎ 4番の**Peach**では、国内線のレジャー・VFR需要や、国際線の再開による訪日需要を取り込み、旅客数はコロナ前から8パーセント増加しました。国内線運賃の値上げや販売施策の効果により、単価が8パーセント向上し、売上高は約1.2倍に増加しました。

◎ 以上のとおり、第3四半期は、旅客事業の売上高が大幅に増加したほか、貨物事業の売上高も、コロナ前比で高い水準を維持しました。航空事業を中心にトップラインを着実に向上させたことが、利益規模と利益率の、両方の改善に繋がりました。

◎ 2月15日には次期「中期経営戦略」を公表します。2022年度の成果を、来期以降のさらなる業績向上に繋がられるよう、引き続き、グループ一丸となって取り組んでまいります。

◎ 以上で、説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

ANA国際線 方面別実績 (構成比)

	FY2019 第3四半期累計 構成比*	FY2022 第3四半期累計 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第3四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
旅客収入	北米	29.7	+ 10.8	39.1	+ 10.3
	欧州	20.1	△ 4.8	16.5	△ 3.0
	中国	13.5	△ 9.2	3.4	△ 8.1
	アジア・オセアニア	30.1	+ 6.5	37.3	+ 4.1
	ハワイ	6.6	△ 3.2	3.7	△ 3.2

* 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えて算定

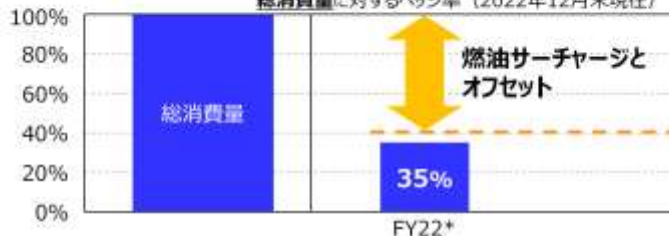
	FY2019 第3四半期累計 構成比	FY2022 第3四半期累計 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第3四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
貨物収入	北米 (ハワイを含む)	35.5	+ 12.7	45.2	+ 10.4
	欧州	15.3	△ 7.2	8.7	△ 7.0
	中国	22.3	△ 2.9	20.4	△ 2.4
	アジア・オセアニア	23.3	+ 0.0	24.6	+ 1.5
	その他	3.6	△ 2.7	1.1	△ 2.5

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージで対応)

総消費量に対するヘッジ率 (2022年12月末現在)



(US\$/bbl)	FY22 3Q実績	FY22 下期前提
トバイ原油	84.8	100
シンガポールケロシン	118.3	130



2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)

全外貨費用に対するヘッジ率 (2022年12月末現在)



(円/US\$)	FY22 3Q実績	FY22 下期前提
ドル円レート	141.3	145



* 2022年8月23日開示「2022年度下期 ANAグループ航空輸送事業計画」に基づいて算定

航空機数

	合計					退役済み機材* を除く		
	FY2021 期末	FY2022 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2021 期末	FY2022 第3四半期末	前年度 期末差
Airbus A380-800	3	3	-	3	-	3	3	-
Boeing 777-300/-300ER	20	18	△ 2	9	9	18	18	-
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	9	1	10	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-10	2	3	+ 1	3	-	2	3	+ 1
Boeing 787-9	39	40	+ 1	34	6	39	40	+ 1
Boeing 787-8	36	36	-	31	5	36	36	-
Boeing 767-300/-300ER	18	17	△ 1	17	-	18	15	△ 3
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3	9	9	-
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22	22	22	-
Airbus A321-200	4	4	-	-	4	4	4	-
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-	11	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	24	15	39	39	-
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-	24	24	-
ANA 計	239	238	△ 1	173	65	237	236	△ 1
Airbus A321-200neoLR	1	2	+ 1	-	2	1	2	+ 1
Airbus A320-200neo	7	9	+ 2	-	9	7	9	+ 2
Airbus A320-200	29	27	△ 2	-	27	27	21	△ 6
Peach Aviation 計	37	38	+ 1	-	38	35	32	△ 3
グループ 計	276	276	-	173	103	272	268	△ 4

* 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差
売上高	1,498	1,802	+ 304	345	530	+ 185
営業利益	26	51	+ 24	△ 2	△ 6	△ 3
減価償却費	36	32	△ 4	1	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	63	84	+ 20	△ 1	△ 5	△ 3
EBITDAマージン(%)	4.3	4.7	+ 0.4pt	-	-	-

	商社事業			その他		
	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差
売上高	614	765	+ 151	276	272	△ 4
営業利益	6	30	+ 23	11	3	△ 7
減価償却費	8	6	△ 1	4	2	△ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	15	37	+ 21	15	6	△ 8
EBITDAマージン(%)	2.5	4.8	+ 2.4pt	5.6	2.5	△ 3.1pt

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp